

国内トップリーグの女子バレーボール
におけるセッターのトスとアタック決定状況
—パスの返球位置とブロック参加率に着目して—

コーチング科学研究領域

5014A025-2 塚田 圭裕

研究指導教員：松井 泰二 准教授

【緒言】

得点との関係から勝利の条件を明らかにするために、バレーボールにおけるゲーム分析は数多くのことが行なわれている。都澤ら（1995）は、ボールデッドの技術要素をサーブ、アタック、ブロックおよびミスに分類して調査を行ない、男女ともにアタックによるボールデッドの割合が高いことを報告している。

本研究が分析対象とした 2013/14V プレミアリーグ女子大会においても同様の傾向がみられ、勝ちチームの取得得点の割合は、アタックが 63.5%、ブロックが 11%、サーブが 4%、そして相手のミスが 21.5%であった。このことからアタックが勝敗を左右する重要な技術といえるだろう。

アタックは相手チームからの返球を直接打球するダイレクトアタックを除いては、相手からのボールを味方がレシーブし、別のプレイヤーがトスしたものをアタッカーが打球することによって成立するプレーである。このような三段攻撃におけるトスについて、チームの 70%以上がセッターによるものであると報告されている（川田，1996）。

得点機会の多いレセプションアタックにおける、A パス時のセッターの配球に関する報告は多くみられるが、味方からのパスがセッターの定位置に返らなかった場

合のコーチングポイントが明らかになっていないと考えられる。

本研究では、これまでのバレーボールにおけるゲーム分析がその目的としてきたように、セッターのトスに関する①ゲーム構造の把握、②戦術立案の一助となること、③チームや個人のトレーニング課題を明確にすることを念頭に、B パス時におけるセッターのトスに関する課題を明らかにし、コーチングに役立つ知見を得ることを目的とした。

【方法】

2013/14 V・プレミアリーグ女子大会において、2013年11月から2014年3月にかけて行われた総当たり形式のレギュラーラウンド 112 試合、5 セット目を含めた全 440 セットを対象試合とした。

セッターのトスに関する調査のため、同大会に出場した 8 チームの中からセッターとして試合に出場したすべてのセッターを対象として、データを集計した。集計の結果、スターティングメンバーとして出場した 8 名のセッターと、試合やセットの途中で試合に出場した控えセッターでは、トスの試技数が大きく異なるため、スターティングメンバーとして出場した 8 名のセッターを分析の対象とした

データ分析ソフト「Data Volley 2007（以下 Data Volley）」および「Data Video

2007」(両ソフトともデータプロジェクト製)を用いて、対象となる試合の映像を流しながら必要なデータの入力を行なった。

【結果】

本研究において対象とした国内トップリーグ女子バレーボールにおいて、トスの試技割合は 77.4%がセッターのトスによるものであった。抽出した 7 項目のうち、アタック決定率、アタック効果率、ブロック参加率の 3 項目について、各返球位置における各項目の平均値に有意差が認められた。

【考察】

セッタートス後のアタック決定率および効果率をセッター以外のプレイヤーがトスを上げた後のアタック決定率および効果率と比較したところ、セッターはその他のプレイヤー比べ、より良いアタック決定状況を生み出していることが明らかになった。

レセプションアタックのアタック決定状況について、パスの評価別にレセプションアタックとの関係をみたところ、B パス時のアタック効果率に強い相関がみられたことから、レセプションアタックのパフォーマンスを向上させるためには A パス時だけでなく、B パス時のレセ

プションアタック効果率を向上することも重要であることが示唆された。

【結論】

B パスには、セッターの定位置から①レフト側に返球されるパス、②ライト側返球されるパス、③アタックライン側に返球されるパスがあり、本研究における分析の結果、以下のことが明らかとなった。

①レフト側に返球されたパスにおいてセッターは、ブロック参加率とアタック効果率との関係から、コンビネーション攻撃を展開し、味方に有利な状況をつくり出すことができていると考えられる。②ライト側に返球されたパスについてセッターは、相手のブロック参加率が非常に高値であり、同じ B パスエリアであっても、ライト側に返球された段階で攻撃が偏り、コンビネーション攻撃の有効性が低くなっている可能性が示唆された。また、③アタックライン側にパスが返球された場合におけるセッターは、特にアタック効果率の値が低く、B パスエリアの中でもアタックライン側に返球されたパスに対するパフォーマンスを改善することが重要であると考えられる。

以上から、本研究では、セッターに関するコーチングのための新たな知見を得られたと考えられる。

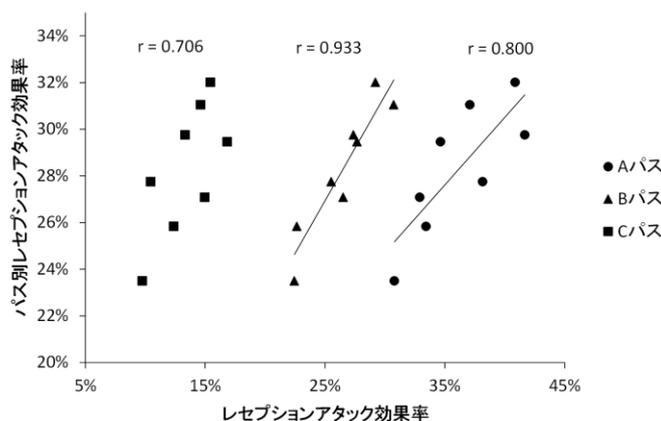


図 1. レセプションアタック効果率と A パス, B パスおよび C パス時のレセプションアタック効果率